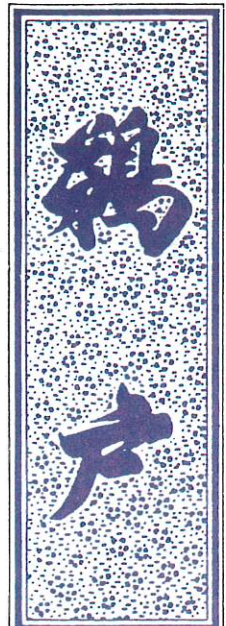




夫妻則忠入家再演中馬道シャンシャン



発行者兼編集者
 鶺鴒 戸 神宮
 社務所
 印刷所
 西日本印刷

ごあいさつ

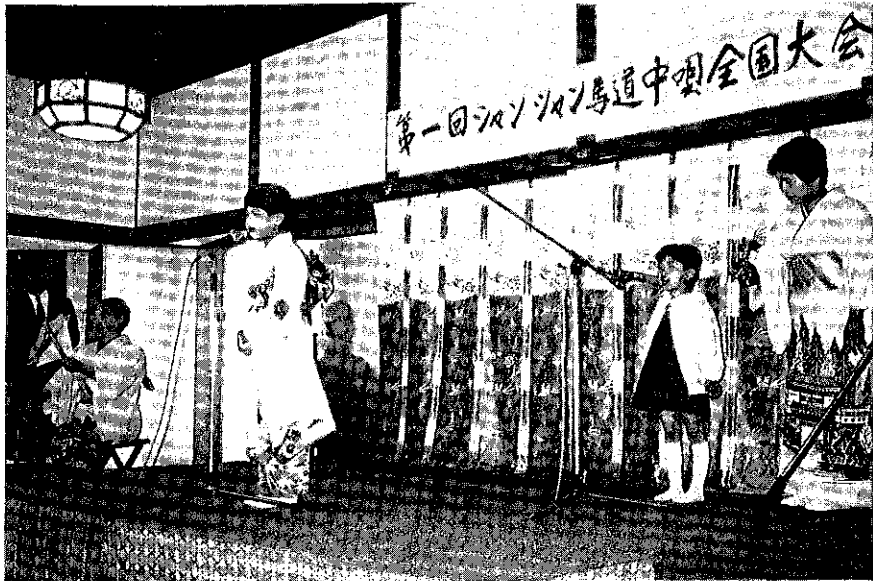
宮司 佐師朝規



暑中御見舞申し上げます。
 暑さ殊に酷しき折から御自愛
 の程祈り上げます。
 鶺鴒さん詣りは春三月よ詣る
 其の日が御縁日云々

数多くありまして、詩や歌に讃えられ語りつがれておりますが、其の一つとして上記の郷土色豊かなシャンシャン馬道中の唄があり、記録によれば、昔、旧暦の三月十六日、若草燃える七浦七峠から宮崎街道にかけて盛装の花嫁女を乗せた馬の群が、鈴をシャンシャンと音も軽く行列をなしつつ、絡繹としてつづいたものである。嫁女の服装は銀杏返しか桃割れで、手綱を取る花婿は単衣黒股引黒脚絆で草鞋ばきの軽装で云々。鶺鴒詣は宮崎県、鹿児島県の男女は殆ど義務的に履行されており此の伝統行事であった風俗が、去る三月二十九日百年振に再現され、又、第一回のシャンシャン馬道中の民謡唄の全国大会が同時に開催されました事は、誠に御同慶に存じ、会長殿を始め御関係者多数の方々の御協力一致御精進の賜で、御祭神におかれましては御嘉賞の御事と拝察致します。

今後益々此の二つの会が郷土宮崎の為、亦、文化の高揚の為にも御隆昌を御祈り致しますと共に、氏子崇敬者皆様方の一層の御多幸を祈念申し上げ御挨拶と致します。



熱戦を繰り広げる決勝大会

昨年十一月より計画を進めていたシャンシャン馬道中唄全国大会が、三月二十八・九日の両日盛大に開催された。

二十八日の予選会は、日南市文化センター、福祉会館に於いて九州はもとより遠くは茨城県から三四九人の出演者があり、少年の部、青年の部、一般の部とそれぞれ各都府に別れて競いあった。又特別出演の民舞シャンシャン馬道中唄や幼稚園幼児の泰平踊なども大会を盛り上げた。

二十九日の決勝大会には、朝早くから生憎の雨にもかかわらず一般観衆者がぞくぞくと当神宮儀式殿に詰めかけた。

出演者は、日頃より鍛えた自慢のノドや三味線、尺八太鼓などの心地よく軽快でリズムカルな音を、終日神

「シャンシャン馬道中唄全国大会開催と シャンシャン馬宮詣り再現」

苑に響かせ、参道の至る所で、口づさむ人や立ち止まって聞き惚れる人などが見受けられた。

大会の結果は、

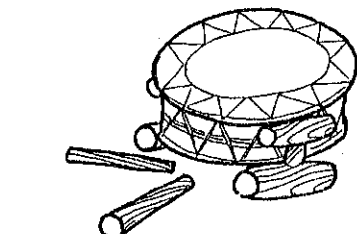
少年の部
一、崎田亜弥(日南市)
二、丸花かおる(宮崎市)
三、坂田育美(児湯郡)

青年の部
一、西 朋子(宮崎市)
二、山口喜代美(延岡市)
三、北山登美子(宮崎市)

一般の部
一、淡島幸子(日向市)
二、小淵恵子(宮崎市)
三、矢野六男(都城市)

又、シャンシャン馬道中唄全国大会とともに昔年らのシャンシャン馬での宮詣りも再現された。昨年十月から今年三月十日までに結婚されたカップルを対象に募集したもので、応募の中から、宮崎市の山崎寛、美紀代さん、姫路市の高橋直樹、友香さん、長岡京市の藤原智紀、真子さんが選ばれた。

三組の新婦さんは、決勝大会に披露される予定であったが、雨の為翌日となった翌三十日、シャンシャン馬道中唄が流れる中を昔年ら



の姿で、シャンシャンと軽く鳴る径一寸五分の肥後鈴をつけ、鞍には置き布団を敷き、尻には真紅で綺麗な尻掛を置いた馬に花嫁を乗せ花婿が手綱を引いて神門を通り、本殿に参拝した。

この風習は、旧暦の三月十六日に若草の萌える日南海岸七浦七峠から宮崎街道にかけて盛装した花嫁を馬に乗せ、手綱を取る花婿が鷓戸の社へ宮詣りしたもので、当時の新婚旅行でもあった。

この日、昔をしのばせる三組の新婦さんに参拝者から「わーきれい」「いいわねー」と云った歓声が、あちこちから聞こえた。

例祭斎行と奉祝行事

二月一日例年この時季は全国的には寒さが厳しい頃にあたるが、日南海岸に御鎮座する当神宮は、雲一つない晴天に恵まれ淡い日射しのもとで、午前十一時より献幣使杉田清氏(県神社庁副庁長)を迎へ、責任役員、氏子、崇敬者総代をはじめ英彦山、鹿兒島、霧島、宮崎各神宮宮司、日光、松原、天岩戸、狭野各神社宮司、県会議員、各地区区長、官公衛代表、敬神婦人会など多数の参列の中、当神宮例祭は盛大且つ厳肅に斎行された。

宮司以下奉仕し、舞楽「蘭陵王」が奉納された。更に例祭奉祝行事として儀式殿前広場の会場に於いて恒例の四半の大会が行われ、県下はもとより熊本、鹿兒島から一八〇チームが参加した。この日の参拝者は三千名を越え厳修される祭儀を畏みつつ、四半の大会の賑やかで和やかな雰囲気

つつまれお参りを樂しむ光景が各所で見られた。

又今年も風田、下中村両地区より例祭に御神饌米が奉納され、その夜は儀式殿に両地区五十名余りが参籠し、豊作占いの歌合戦を夜が更けゆくのも忘れて行われた。

翌朝は一同御殿に参拝し今年の豊作を祈念した。

八日の日曜日には、第三十五回剣法発祥鷓戸山頭彰剣道大会が開催され、小・中・高・一般ごとに分かれ一八六チーム、一九二四人の選手は観衆数約三〇〇〇人が見守るなか、終日熱戦がくり広げられた。

四半の大会、剣道大会の成績は次の通りである。

【四半の大会】

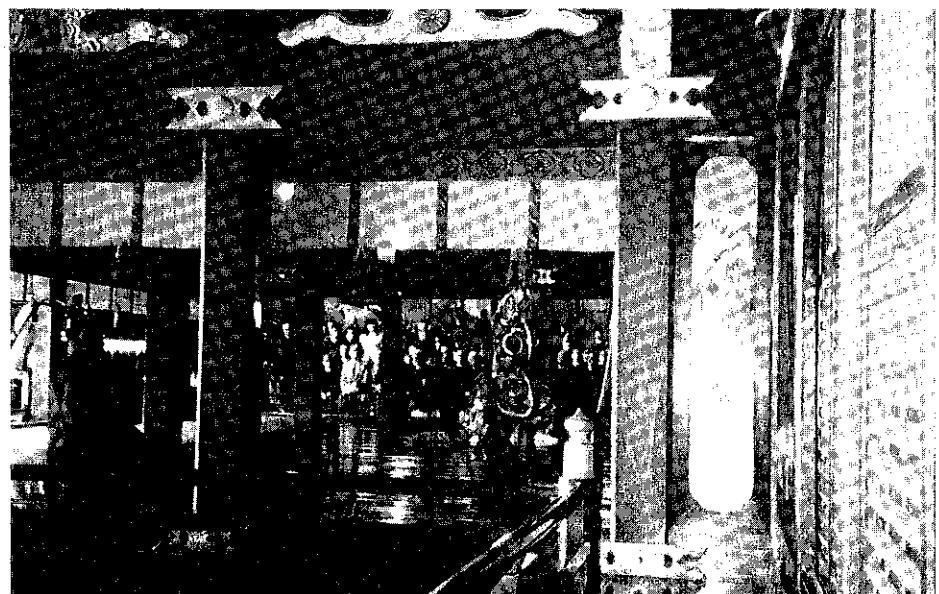
【団体】
▽一般①国富②鷓戸③清武
▽高齡①串間A②沖水第③山ノ口A

【個人】
▽一般男子①長友正次(鷓戸)②安井秀義(田野山住)③中野次男(国富)
▽高齡男子①坂元十蔵(都北)②長友末男(宮崎)③谷山通義(小林)
▽一般女子①馬場セツミ(中郷)②鬼塚菊代(佐土原)③福園姜子(えびの)
▽高齡女子①鈴木フミヨ(木城)②吉川ハルエ(沖水)③木脇シヅミ(山田)

【剣道大会】
【男子団体】
▽一般①県警機動隊(宮崎市)②宮崎南警察署(同)③大久保練心館(宮崎郡)、日南警察署(日南市)
▽高校①高千穂②宮崎北③高鍋、宮崎日大
▽中学①修道館(延岡市)②土々呂中(同)③高千穂中(西臼杵郡)、佐藤道場(延岡市)
▽小学①延岡至誠館(延岡市)②北辰館(宮崎市)③修道館(延岡市)、朱省館道場(宮崎市)

【女子個人】
▽一般・高校①坂本小裕

理(高千穂高)②石田和美(宮崎日大)③椎葉礼(宮崎北高)、岩切千夏(高千穂高)
▽中学①西郷靖代(五十市中)②柏田友美(誠之館)③横山亜矢子(今井道場)、野田幸美(高原中)
▽小学①益田佳代子(楨原少剣)②仲馬久美子(北辰館)③木田留美(神武館)、山本満美(月心館)



舞楽「蘭陵王」

鶉さん参り体験記

家入忠則 (32才・公務員)

鶉さん参りは 春三月よ

(参るハラセ)

参るその日が 御縁日

(ハココンキココンキ)

ハシャンシャン馬道中唄

明るい歌詞と独特の節回

しのこの歌は、私の大好き

な民謡のひとつである。

子供のころ、宮崎市の秋祭

りである。神武さまの御

神幸行列で見ていたシャン

シャン馬は、子供心にも強

いあこがれを感じていたに

ちがいない。

ひと昔前、といっても江

戸の中期から大正の初めご

ろまでであるが、宮崎地方

に住む若者たちは、結婚す

ると必ず新妻を連れて、鶉

戸神宮に参る習わしがあっ

た。当時は、この風習もか

なり強制力をもつもので、

お参りをしない夫婦は周囲

から白い目でみられたそう

であった。

今でいうハネムーンである

が、その道中は、難所とい

う。

われた七浦七峠があり、往

復二十里あまりを、手甲、

脚絆にわらじばきという旅

姿で歩いたそうである。

お参りをすませた帰路に、

花嫁の足を気づかされた親

たちが、途中で出迎え、引

てきた馬の背にあかげつと

(赤毛布)をかけ、盛装し

た花嫁を乗せ、花婿が手綱

を引いて家路をたどるもの

であった。

この風習は、のどかな日向

の風土にふさわしく、ロマ

ンにあふれたものであった

が、時の流れとともにすた

れ、姿を消してしまつた。

ハネムーンといえば、ハワ

イ・グアムと海外旅行が当

然と思われている昨今であ

るが、地元になすばら

しい風習があるのに、なぜ

七十数年も途絶えているの

だろう。自分の結婚の時は

必ず再現させてみようと思

かに心に決めていた。

縁あって、人生の伴侶に

したい娘がみつかり、プロ

ポーズの言葉のあとに、こ

の夢を彼女に伝えたが、返

事はあっさりノー。

約半年がかりで説得をつづ

け、やっとのことで了解を

もらったが、今度は肝心の

当時の模様を伝える資料が

みあたらない。

毎日、図書館に通い、また

詳しい人をたずね歩き、な

んとか衣裳・髪型等見当を

つけることができた。

当時は今のように物が豊富

でなかったせいか、質素な

ものだったようである。

馬に乗る練習を行い、コー

スの下見をし、二泊三日の

計画表をつくりあげた。

もちろん往復80数キロを歩

きとおす体力をつけるため

二人とも毎日ジョギングを

かかさなかった。

準備万端整え、その当日

を迎えた。初日はまだ夜も

明けやらぬ午前六時に出発

し、途中雨にもふられたが、

十三時間半後、日もとっぷ

りと落ちた午後七時半に、

大きなマメのできた足をひ

きずりながら、目的地の鶉

戸神宮にようやくたどりつ

いた。

閉門の時刻より遅れての到

りに笑われますよ、という

んですけど、重要なのは親

の後姿を見て育つ、親が毎

日どういう行動をしている

か子供達はちゃんと見てお

り、そしてそれを自分達に

取り入れていくのです。」

という事でした。

現代の社会は大変厳しい

ものです。しかし今、親子

の間に厳しさが欠けてきた

と思います。先生と生徒、

夫婦、兄弟、会社の上の人

と下の人との間にも厳し

さが欠けてきたと思います。

厳しさをいふのはただうる

さいものではない苦です。

厳しさとは何か、厳しさ

とは本当の暖さだと思います。

この世の中、屁理屈だけで

では生きて行けないし、ま

た学問だけでも生きて生

けない部分があると思います。

そして一番大事な事は経験

から身につけた知恵とやろ

うという意欲、その心が一

番大切だ。そういうものは

厳しさの中から生まれて

くる筈で、決して他の所か

ら生まれて来るものではない

と思います。人間は楽しんで

て楽にはなれません。苦勞

をするからこそ始めて楽が

見えて来るものだと思います。

着であったが、いやな顔ひ

とつされず、おはらいをし

ていただいた。二日目の帰

路、内海の野島神社から、

青島神社までの約10キロを

昔ながらのスタイルで、鶉

戸さん参り”を再現した。

はじめは、予想以上の見物

人とマスコミ各社からのイ

ンタビューにとまどつたが、

沿道からの祝福と激励の声

にはげまされ、足の痛みも

忘れることができた。三日

日は、重いはずの足よりも

軽く、やったという満足感

を全身で感じながら家路に

ついた。

また、あれほど嫌がついて

た彼女が、馬上での無理な

姿勢にも愚痴ひとつこぼさ

ず、従ってくれたことにい

じらしさを感じた。

今回の鶉さん参りは、

自分達の結婚の記念にと思

いたったことだったが、た

くさんの人にお世話になり

また、道中見ず知らずの方

からの祝福やげましの言

葉は一生涯忘れることができ

ないであろう。

山あり谷ありのこれからの

人生、鶉さん参りで学ん

だ人の心の温かさ、ありが

たさを忘れずに二人で仲良

す。

今の世の中屁理屈だけが

先行して知恵というものが

薄くなってきたと思います。

百の説明より百の実行とい

う言葉があります。子供に

立派にやらせるにはまず説

明し話す、そしてやって見

せ、後に本人にやらせる事、

やらした後でほめる。でも

なかなか出来る物ではあり

ません。その時、じっと我

慢して替めるのです。昔の

人は知らないことは恥かし

い事ではない、知ろうとし

ない方が恥かしい、知らない

い事を聞いてそれを自分の

身に付ける事それをしてい

事が恥かしいことであって

知らないことを聞くことは

少しも恥かしい事ではない

からです。

ところが今のお母さんは

子供が知ろうとする事を押

えようとする傾向がありま

す。子供がなぜと聞くと、

あなたそんな事も知らない

の、と言って自分の体面の

方を繕って子供がなぜって

聞いた時、こういう時お母

さんが、それはこうなのよ

って、自分でもし分からな

かったらお母さんも一緒に

考えてみたいわ、という事

く手を取りあって、立派な

家庭を築いていきたいと思

う。

日向七浦七峠

旅のつかれもわしゃ知らぬ

かけた誓いはいつまでも

長い手綱のヨ

アリヤサ 馬のせな

ハシャンシャン馬の唄

別当宮司

先賢慰霊祭

去る五月二十一日、別当宮司関係遺族、責任役員氏子総代、御詠歌等の参列のうち、別当宮司先賢慰霊祭が別当墓地に於いてしめやかに斎行された。斎主祝詞奏上の後、潮満寺僧侶伊勢木俊真氏外僧侶二名と御詠歌十数名により法要が行われた。

躰と厳しさ

権称宜

永友謙 二

縁と言うものは不思議な

ものです。人と人との出合

社会との出合、現在私達若

者にとって最も重要な、且

つ必要な事は大先輩方々

からの厳しさではないでしょ

うか。

先日テレビを見ていまし

たら「しつけ」というテー

マでした。その中からです

が、現在親に躰に対し自信

がありますか?という質問

に13パーセントの人が自信

く使わない。ごはんを残す、

箸を正しく使えない、人そ

れぞれ親の家庭環境、人柄

教養、親から受けた躰、そ

う言った色々なものが子供

をつくっていくものです。

また大妻女子大の平井先

生は躰に対し三つ大事な事

がありますと言っておられ

ました。

「一つは、三つ子の魂百ま

でも、三才までが非常に重

要、一つは学校に入るまで

の躰、一つは三つ子の魂百

までの魂の意味、中身が意

欲、思い遣りだという三点

を上げられました。

小さい時に意欲的に生活

出来たという事が関わりを

持っている。そして思い遣

りを育てる。相手の立場に

なって考える相手の気持ち

を汲む事、思い遣りはどう

やって育つかと言いますと

六才まででどう思う遣り

を受け取ってきたかという事

思い遣りを受けて来た子は

思い遣りが育つという事が

分かってきた、そういう事

はお父さんお母さんに思い

遣りがあると子供にも思い

遣りが育つ。

日本だけにしかない躰は、

誰さんが見てますよ、誰さ

ら見て来ると思いま

す。

き

す。

によって心のふれ合い、ス

キンシップを感じどんどん

良くなっていくと思います。

それと大切なものは自分

自身の中に善悪というもの

が分る心、悪いことはしな

いんだというブレーキをか

けられる人、そのように育

て上げなかった親、大先輩

の責任だと思います。子供

の頃から悪いことをすると

叩かれる良い事をすると思

えらめる、はじめがきちん

とついています。経験に勝

る宝なし、昔の人は大変良

い事をたくさん残していま

す。そして耳学問でたくさ

んの事を知っています。

しかしその大先輩方々は

今やさしすぎます。もっと

もっと頑固爺になってほし

いのです。

厳しくなるとほしいのです

良いお爺ちゃんお婆さんで

はいけないと思います。

最後に若輩者の私が生意

気な事を言って大変申し訳

ありませんでした。健康に

勝る宝なし、大丈夫だから

と言って無理をせず、ずっ

とずっと永生きをして下さ

い。私達若者にとって大先

輩方々は生き神様です。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

いさみ太鼓奉納

今年もこの日恒例のいさみ太鼓を五月五日午前十時より本殿、儀式殿前広場に於いて奉納した。この日は朝早くから、武者幟、鯉幟や吹流しがたなびく儀式殿前広場に鵜戸・潮両小の児童や幼児たちが、ぞくぞくと集まってきた。子供たちは儀式殿にて揃いの鉢巻とハッピー姿に着替えて、小学生はバチを、幼児は鈴をそれぞれ手に持ち広場に設置してある長銅太鼓やメ太鼓の前に並び、軽く練習した後二列に並び、トントンカチカチとメ太鼓とバチの音を轟かせ乍ら、本殿へと参進した。

黄金週間の最後とあって参拝者は多く本殿の人集りを掻き別けて大前に勢揃した。子供たちは緊張した面持ちで先達に合わせて、

此の世に生をうけ しあわせである事を
神と親に感謝し あわせ
て 無病息災を祈念し
ここに真心こめて いさ
み太鼓を打つ
守り給へ・幸へ給へ

と全員で祈念詞を奏上した。

いさみ太鼓はじめませつ、の掛声とともに太鼓や鈴を打ち鳴らし、これに四体の獅子舞も所狭しと舞っていた。又、同じ様に広場に於いても奉納した。

鵜戸の荒磯に打ち寄せる怒濤の如く勇装に打ち叩く子どもたちの姿を、参拝者はしきりにカメラに収めていた。

五月の空は美しく、日南海岸独特の眩しい日射しと木々の青葉のじみ出る緑を湛える様な、さわやかな子どもの日を親子揃って鵜戸さんで楽しんでいった。

研修旅行に

参加して

巫子

佐藤 富士子

今年も、二班に別れての、研修旅行が行われた。

第一日目、朝一便で羽田へ飛び、バスで横浜へ向かった。外人墓地の前を通り、横浜での一番最初の目的地、人形の家へ行った。

生憎、人形の家は閉館日で、

中に入れないまま、次の目的地マリントワーへ。その日は天候も良く、展望台から見下ろす景色は、素晴らしいものだった。そこで世界各国の船の模型等を見たりして、昼食場所水川丸へ。昼食の後船内を見物して、山下公園で写真を撮ったりした。横浜を後にし、沼津を通り、混雑の中多少時間は遅れたものの、一番最初の正式参拝の神社、三嶋大社に着いた。参拝後、神主さんにお社を案内して頂き、御本殿の彫刻には、すっかり全員が感心していた。そして、私達の泊まる長岡へと向かった。

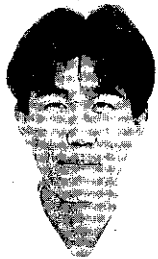
第二日目、朝、目が覚めると外は雨だった。予定より三十分早く宿を出、日本平へと向かった。そこは思ったよりも寒く、みんなガタガタ震えながら、ロープウェイが来るのを待った。ロープウェイに乗り、霧の為景色もよく見られないまま、久能山東照宮へ着いた。雨の中階段を上ることは、大変困難な事だった。参拝後は博物館に入り、徳川家康の使用していた時計や御太刀を見せて頂き、家康時

代の様子が目に浮かぶ様だった。そして、またロープウェイで戻り昼食。その後各自、買い物をしてたりして、時間の都合で予定していた登呂遺跡には行かず、秋葉山本宮秋葉神社へと向かった。雨の中、外の景色もよく見えないまま、バスは細いくねくね道を走って行き、そろそろくたびれてきた頃、ようやく秋葉神社下社に着いた。しかし、外はずい雨にたたられていて、しばらくバスから降りる事ができなかった。少し小降りになり、秋葉神社に入ると、まず正式参拝からだった。

始まる前にロソクに火をつけての参拝は、初めて見たので、私の頭に強く印象に残った。社務所に入り、口頭での説明より見てもらいたいとのことと、「弓の舞・剣の舞・火の舞」のビデオを見せて頂いた。秋葉神社を後にし、二日目の宿、館山寺温泉に着いた時は、前日からの疲れとバスからやっと解放された気分、自分の部屋に入って、しばらくは動かさくないという気持ちでいっぱいだった。それでも夜の宴会は、みんな

宮崎に着いて飛行機から降りた時、研修旅行もこれで無事終わったと思った。みんなそれぞれ二泊三日の研修旅行で、沢山の思い出を胸に抱き家路へと向かった。

新職員紹介



出身

丹生 貴士

神話に御縁深き宮崎。青い海にボッカリと口を開いた岩胎に大神様が鎮まります。鵜戸神宮へ両親、恩師、諸方々より恩を受け奉職させて頂きました事、感謝の念に絶えませぬ。

三月に母校を巣立ち自分

が、学生時代に学び得た事を、どれだけ実行し、納得しているのか希望に胸ふくらませて神職の第一歩を踏み出しました。

実際に体験してみると、自分の不十分さを反省させられる点が多々有り改めて、神様にお仕える身の難しさ、厳しさを痛感致しました。

この事をこれからの人生の基盤とし、これから体験し

て行く中で幾多の壁を私なりに、一つ一つ克服して行きたいと思えます。

三ヶ月過ぎ、毎日の社頭勤務の中で感じた事は、参拝者にも十人十色のごとく、熱心に拝がむ人、本殿を素通りする人、軽装で参拝する人、又、岩胎に入ることすらしない人、様々である。祖先から子孫へと受けついできた「日本の心」が現在に至って、少しずつ失われつつあるのではないかと思うと、ともに古典など見直して行かなければならないと思えます。この事は最近、我国の色々な問題についても言える事であろう。又、参拝者に対して日々、辛多かれと祈る次第でございます。

当神宮は、神仏混合の信仰が絶える事なく、本殿、玉橋、八丁坂(八百十五段の石段)、主祭神を葬め奉ると伝える吾平の山上陵など各地に昔の面影を残している、こう言った恵まれた環境において、御奉仕出来る事に感謝いたします。

生涯、神道を歩んで行き、私に与えられた任務を果し、これから変化して行く時代



巫子見習

古澤 みどり

から、最も古くして、新しい道である神道を守り伝えて行きたいと思えます。又、常に感謝の心を忘れず無為に月日を過ごす事なく、日々精神勉学に励む所存であります。

一年間のうち、お正月位にしか神社に参拝する事がなかった私が、神宮に奉職する事になり、こんな私に勤まるかどうか不安で、この三ヶ月戸惑ってばかりの日でした。

神宮に奉仕すると言う事が、どういう事なのか、まだ良く理解できていなかったのも一つの原因でした。今でも至らない事はかりで、神主さんや先輩の巫子さん方に迷惑のかけ通しです。でも少しずつ自分なりに努力しながら頑張りたいと思っております。

巫子として、覚えなければならぬ事も沢山ありました。これからは、社会人であると共に、神宮に奉仕している事を念頭に置いて、自分の行動に責任を持てるよう努力してゆきたいです。

まだまだ、失敗ばかりの毎日ですけれど、先輩の巫子さん方を見習いながら、一日でも早く、一人前の巫子になれるように、一生懸命頑張りたいと思えます。



巫子見習

嶋岡 ひろみ

鵜戸神宮で奉仕しはじめ、もう二ヶ月ががようとしていきます。最近やっとうにか仕事にも慣れてきたところですよ。

入ったばかりの頃は、先輩方の仕事ぶりなどを見て自分もあんなふうにてきぱきとしたことが出来るようになるのだろうかと思不安で

なそんな疲れも忘れたかの様に、歌ったりしてにぎやかに過ごすことができました。

第三日目、いよいよ研修旅行最後の日だ。前日はまったりと違って、素晴らしい晴天だった。この日は予定は熱田神宮に参拝する予定だけだった。一班は熱田神宮の例祭だった為、自由参拝だった。私達二班は、正式参拝があった。参拝後、熱田神宮の神主さんから色々説明があり、年に一千万人も参拝者があると聞いた時は驚いた。宝物殿を見物し、熱田神宮を出、名古屋市内で昼食、そして名古屋空港へと向かった。名古屋市内をバスで通るとき、ガイドさんが名古屋の道路は、よく整備されていると言われ、本当にそうだなと思った。名古屋空港まで、時間帯が良かったらしく、スムーズに行くことができ

した。そしていろんなことを教えていただく度に緊張感で一杯でした。

学生時代は年上の方達と接することも少なく、たまに話すことがあっても特に言葉に気を使うということはありませんでした。

学校では挨拶など礼儀の面で、特に厳しく言われたものでしたが、今考えると自分がしてきた挨拶は形式だけにしかすぎないものでした。それに気づいたのも、実際に人の接待をやるようになってからです。

参拝者の中には、小さい子供さんから年配の方をして身体に障害のある方などさまざまな人がいます。

そんな方達に、愛想の悪い応対をしたとしたらどうなるでしょう。

相手を不快な気持ちにさせることはもちろん、言葉の受け止め方によっては、深く傷つけてしまうこともあります。特に身体の不由な方は、ちょっとしたことでも敏感ですので、繊細な配慮が必要だと思います。一瞬の内に、人の性格などを見抜くことは大変難しいことですが、人と接する

上で大切なことは「思いやりの心」ではないかと思えます。

学生の頃、形式だけの挨拶をしていたのは「思いやりの心」がなかったからだと思います。

こんな事を考えている現在でも、心のこもった応対が出来ているかと言うと、まだまだ努力が要ります。

「思いやりの心」は仕事の上ばかりでなく、私生活の上でもとても大切なことなのでいつも意識しておかなければいけないと思います。

今度は、見せ掛けだけの「思いやり」にならないよう一生懸命頑張りたいと思います。

笛や太鼓もまだまだ練習不足です。

一人前にはまだ程遠い私ですが、これからはますますの御指導よろしくお願いいたします。

巫子見習 鈴木直美

「鵜戸さん」そう親しんでいる鵜戸神宮へは、小さい時からよく参拝したものです。そんな私がその鵜戸神宮へと奉仕するようになりまして。小さい時分からよく知っていた、と言っても事実上、私は鵜戸神宮については何もわかっていませんでした。そのため最初の頃は、覚える事だらけで困惑していました。中でも、先輩の方達から「苦労した」と聞かされていた。特に笛については悩まされました。

今ではどうにか鳴るようになりましたが、それまでは本当に先輩方みたいな音色が鳴るようになるだろうかと不安でした。鳴るようになつたと言いましてもまだまだ充分ではないので、今後も練習を怠る事のないようやっていたいと思います。

何もかもがわからぬまま過ぎてきて、今日までに至りましたが、少しずつ神宮の事についてわかるよう

になりました。が、不十分な面が多々ありますので、ほんの少しずつでも身につけていきたいです。

神宮に参拝される方は、地元の方々をはじめ地方から来られる観光客の方々です。そんな参拝者の方々に宮崎の鵜戸神宮と印象強く胸中に思っていたただくには奉仕している私達にかかっているのでは、と私は思います。いつでも思いやりの心、親切を心中に秘めていきたいです。奉仕する身になって学んだ事は、たくさんありました。これからも自分自身にプラスになるようないろいろな事を学んでいきたいと思えます。そのためには、神主さんや先輩巫子さんの御指導を必要とするわけですが、御指導をお願い致します。私自身も今はまだ未熟者の身ですので、早く一人前の巫子として奉仕できるよう努力していきたいと思っております。今後、私も自分なりに精一杯やっていくつもりですが、多少、他の方々にはご迷惑をおかけするだろうと思えますが、頑張りますのでよろしくお願い致します。

編集後記

神苑も緑雨や梅雨に濡れる頃となりました。時折雲の隙間から差し込む眩しい日射しが真夏を感じさせます。皆様如何お過ごしでしょうか。ここに社報第二十号をお届け致します。

当神宮では、六月に入りますと楼門に茅輪がつけられます。脇に立ててある説明書を読んで茅輪をくぐり、人形で身体をなで息をふきかけ、箱の中に納めて頂きます。

この上代より続く季節的行事は、大宝令に定められ民間に於いては夏越抜の名で行われてきました。しかし大抵の参拝者は、大抜を「初めて知った」と言われます。

大抜の説明書には「・・・知らず知らずのうちに過ち犯した罪・穢を洗い清める」と謳って通り「良い慣習だ」「清々しい心持になった」と参拝者には好評を博しています。

(伊東)

